

みなみまち協だより

第7号 平成28年11月15日
発行所：みなみまちづくり協議会
高山市岡本町1-18 南小学校内
Tel&Fax 34-0114



新 高 山 駅

昭和9年、飛騨人が待望した鉄道、高山線が開通し、以来その駅舎は、多くの人々に親しまれてきました。しかし老朽化が進み、平成26年、惜しまれながらも取り壊され、80年の役目を終えました。代わって本年10月、新しい駅舎が誕生しました。正面壁面には、古い町並みをイメージした格

子パネルがつけられ、内装には、飛騨産のヒノキが使われています。駅舎2階には東西を結ぶ自由通路（匠通り）も設けられました。

一新された駅舎は、今後高山市の新しい顔として新たな歴史を刻んでゆくことでしょう。

と必要かと考える。(信 由樹)

また後者も夏に発生し、その姿を見るようになった▼温暖化は、将来、超大型台風や集中豪雨などをもたらすといわれている▼自然の猛威には逆らえないが、防災を徹底すること、その被害を抑えることはできる。「みなみまち協」でも防災への取り組みが行われているが、これからはもう一つ、温暖化にも目を向け、地域からその課題を発信してゆくこ

旬 桜
今年の夏は暑かった。不安定な天候の日も続いた。大型台風もいくつもやってきて、集中豪雨による災害も多発した。このことは地球の温暖化と相関関係にあるといわれている。北極やヨーロッパなどの氷河が年々解けてゆくのを見ると、やはり地球規模で温暖化が進んでいることを実感する▼高山市においてはたとえば蝶がそれを教えてくれる。ツマグロヒョウモン、クロノマチヨウというタテハチヨウ科の蝶がいるが、両者とも暖地性の蝶で、これまで高山市では決して見ることのなかった蝶である。それが前者は平成に入ってから見かけるようになり、今では春から秋遅くまで市街地でも発生するようになった。また後者も夏に発生し、その姿を見るようになった▼温暖化は、将来、超大型台風や集中豪雨などをもたらすといわれている▼自然の猛威には逆らえないが、防災を徹底すること、その被害を抑えることはできる。「みなみまち協」でも防災への取り組みが行われているが、これからはもう一つ、温暖化にも目を向け、地域からその課題を発信してゆくこ



会場はいっぱいの出席者

「南地区敬老会」特集

と き：9月19日（敬老の日）

と ころ：高山グリーンホテル（天山の間）

「南地区敬老会」は、昭和30年頃にすでに行われています。当初は「南婦人会」が主体となって行われていました。その後「南社教」が主催するようになり、昨年から「みなみまち協」に引き継がれました。会場も、当初は南小学校名田校舎の講堂。昭和37年、同校が岡本町へ移転してからは、その体育館。そして昭和53年からは、高山グリーンホテルと変わって現在に至っています。高齢の方を招待し、長寿をお祝いしておもてなしをするというやり方は、当初から連綿と続いていて、60年という歩みの中、延べ約15,000人の方々が出席されています。

378名の方々をお迎えして盛大に開催



ベリーダンス（アミーラジャミール）



遊戯（岡本保育園児）



徳兵衛獅子（辻ヶ森三社）

最高齢出席者は 百歳の桐原さん

お祝いの花束を受ける
100歳の桐原チキ子さん
（上岡本町5丁目）



新舞踊（三喜流風千佳会）



津軽三味線
（加藤訓成会 社中）



余興で会場は盛り上がる



長寿をお祝いして万歳三唱



飛騨やんさをみんなで踊る



ダンス（モダンガールキャピキャピース）

第2回 みなみふれあい文化祭 特集

新企画！ミステリーBOX
(終わらないかくれんぼ)



芸能公演 (南小4年生の合唱)



芸能公演 (松倉中吹奏楽部の演奏)

晴天好日。多彩な催しを楽しみました。

とき：10月16日(日)
ところ：南小学校

「みなみふれあい文化祭」は、平成17年、「南社教」の時代に生まれました。それまで行われていた南地区全町内会の住民の参加による事業「南校下大運動会」が諸事情で廃止され、代わって生まれたのが「ふれあい文化祭」でした。この事業は、地区全体の参加によって地区住民の連帯感を高めるというもので、年々盛大に行われ、事業は昨年発足した「みなみまち協」に引き継がれ今日に至っています。

松倉中部活動紹介
(美術部の作品展示)



高山工業高の
オリジナル
ストラップ作り



リサイクルバザー



岡本保育園児の
作品展示



お化けの出たミステリーBOX



売切れの続出したバザー



囲碁教室

みなみまち協

行事アルバム

クラフトテープで作る
かごバッグ講座
(8月25日)



ワイン講座(7月7日)



みなみ地区防災を考える会(8月30日)

歴史散歩(10月22日)



押し花アート教室
(9月28日)



楽しいおやつ作り



一からはじめる画藁教室



手拍どき日本舞踊

子ども体験教室
(いつでも7月16日)

みなみまちづくり協議会

今後の行事予定

- 12月1日(木) 市長と市民の対話集会
- 12月~3月 除雪活動支援
- 1月 物作り講座

- 1月 冬のワイン講座
- 2月 みなみ地区ポーリング大会

※詳細な日時は回覧でご連絡いたします。

解説
まちづくり協議会

まちづくり協議会で住民はなにをするの？



まちづくり担当職員
柴田昌彦

前回の「みなみまち協だより」では、「まちづくり協議会とはそもそもなに？」の問いかけに、「住みよいまちづくりを、地区に住む皆さんと一緒に考えるための団体です」とお答えしました。では、「住民はなにをするの？住みよいまちづくりと一緒に考えるってどうゆうこと？」となりますよね。そして、「まちづくりのことを考える？むずかしそうやなあ」って思っていますか。

それならずは、みなみまちづくり協議会の行事に参加してみてください。そして多くの人とお話をしてみてください。すると今まで知らなかったことや、新たに興味を持つことなど色々な発見があると思います。みなみまちづくり協議会では様々な活動が行われています。

「みなみふれあい文化祭」では、芸能祭や児童作品、各種講座の作品展、リサイクルバザー、スポーツ交流会、

お年寄りと子どもの交流会など色々な行事があり、多くの方が参加できます。みなみ地区の活動を見たり話したりして楽しむことができます。

また、お年寄りの方でしたら、「敬老会」に参加して色々な方と親交を深められます。

そして、子育てを頑張ってみえる方でしたら、みなみ地区の高校生がお子さんの勉強を見てくれる「自進教室」に参加させてみたらどうでしょうか。苦手になっている科目を克服

できるかもしれませんよ。

行事ではありませんが、町内会長さんに「家族に若い人がいないので、冬の雪よけがきつい」といった相談を受けることで、家の前の除雪支援を受けたりすることができます。

みなみまちづくり協議会の活動の一部紹介しましたが、色々な活動に参加していただくことで、みなみ地区のまちづくりを考えることにつながるのではないのでしょうか。

新規事業紹介
「自進教室」

青少年部では自主学習支援事業として自進教室を昨年度より開催しております。自進教室では自分で進める勉強を応援することに主眼を置き、宿題等が分らずにつまづいている部分や子どもと一緒に考え教えていきます。これによって子どもたちが自分で勉強を進めていく力を付けてもらうと同時に学力向上を目指します。

昨年度は夏休み期間に五回教室を開き、延べ四十四名の子どもたちが利用しました。今年度は地域の高校生に先生



役をお願いし、松倉中学校の定期テスト対策を中心に開催しました。開催要項や運営方法をゼロから作りあげており、反省点や改善点が多い事業です。より充実した事業にしていきたいと思っておりますので、一緒に活動して下さるボランティアを随時募集しております。応募したから必ず何かをやらなければならぬということではなく、お時間のあるときにお力を貸したいと感じて進めていきたいと思っております。子どもたちの学力向上は地域の向上につながります。何卒ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

(青少年部長 田中弘泰)

クラブ紹介

南地区には、芸能・芸術スポーツ・地域起こし等、さまざまな分野で活発に活動されている会がいくつもあります。そうした会を順次紹介します。

すいせんの会

人の輪をつなぐスイセン

今を去る平成二十三年頃、川上川沿いに約三百米渡り、下之切町の石原辰雄夫妻がスイセンを植えているのがきっかけ、町内でも出来ないかと呼びかけたのが始まりで、緑ヶ丘二丁目の町内の六十歳以上の有志で、石原さんや農家から株を譲り受け、十四人の会員で町内の土手に約二万株ほど植え、三この殺伐とした世の中、人との付き合いがなくなりつつある町を、スイセンを通してつないでゆければ」と思い、はや六年がたちました。

又、三年前から使われなくなったこのほりを引き取り、公園や土手に飾って時季がくると、他の町内から子どもつれの親子が遊びに来てくれる、集まれば「まめなかな」と、声を掛けるようになったこの頃です。

(すいせんの会会長 田口 惺)

南地区ウオッチング

二、旧市街地区・駅前地区

文・写真 新谷 信之

前号の「地区の概要」に続き、今回は、「旧市街地区」と「駅前地区」をウォッチングする。

旧市街地区

この地区は、宮川に臨む川原町、本町一丁目、さらに川原町に接する西町・八軒町を含む一帯である、この辺りは古くから開けたところで、金森時代後期に作られた高山城下町



かつて益田街道だった川原町の通り

高山陣屋とその前広場の朝市、中橋から宮川の景観等、この一帯は高山市を代表する観光スポットで観光客の絶間がない。

かつて益田街道だった川原町の通り。今は昔の面影はほとんどないが、江戸時代、地役人の家々が軒を並べていた西町、街道としての川原町の町筋は、落ちついたたたずまいの中にそこはかとなく歴史的雰囲気を感じさせる所である。西町の中通り（中町）は歩いていて心休まる小路である。

陣屋前は今もにぎやかであるが、昔も交通の要所として、飛騨国外へ出る諸街道の起点であった。川原町方面へは益田街道、八軒町方面へは郡上街道、北方面へは越中街道、川東方面へは平湯街道、江戸街道が伸びていた。

すでに扶持人や足軽の家が並んでいるのが図示されている。金森家の下屋敷はその後、幕府の代官所となり、高山陣屋として歴史を刻み、明治以降は県の役所となって存続してきた（昭和四十年移転）。

の絵図には、金森家下屋敷をはじめ現在の川原町、西町、八軒町辺りに、

駅前地区

また、宮川を隔てた三之町の古い町並への西の入口であり、中橋スクエアは、春の山王祭の屋台からくりが演ぜられる重要な場所となつている。旧市街地だけに、陣屋、一本杉白山神社周辺には、文化財、史跡も多い。

いわゆる駅前といわれる花里町、天満町、名田町を包括する地区である。地区の西側にJR高山駅がある。高山駅は、昭和九年の高山線開通以来八十年の歴史を刻んできたが、老朽化のため一昨年解体され、今は新しい駅舎に生まれ変わっている。車社会となったこの時代でも高山駅は高山市の顔であることに変わりはない。駅に隣接してバスセンターがあり、飛騨内外を結ぶバスが発着する。このため駅周辺は、観光客をはじめ、地元客でかなりのにぎわいを見せる。

この地区は、昭和に入ってから伸びてきた地区で、とくに昭和九年、高山線が開通し、高山駅が開設されるに及んで急激に発展した。一般商店をはじめ、旅館・ホテル・飲食店・観光土産品が多く、街路は市内中、もっとも整然として広く明るい。



ビルの建ち並ぶ広小路通り

東西を通る八軒町通り、広小路、駅前中央通り、国分寺通りと、南北を走る花里町通り、天満町通り、名田小路の各通りが基盤目を作っており、どの通りも真直ぐに伸びる。広小路沿いには、郵便局、商工会議所があり、この辺りを中心に周辺には保険会社、新聞社等が集まってビジネス街といった様相を呈している。

この地区は、前述の旧市街地とながっているが、街の雰囲気はまったく異なっている。

（次号では「駅西地区」を解説します）

みんなで解いてみよう！
「みなみまち協」
クロスワードパズル

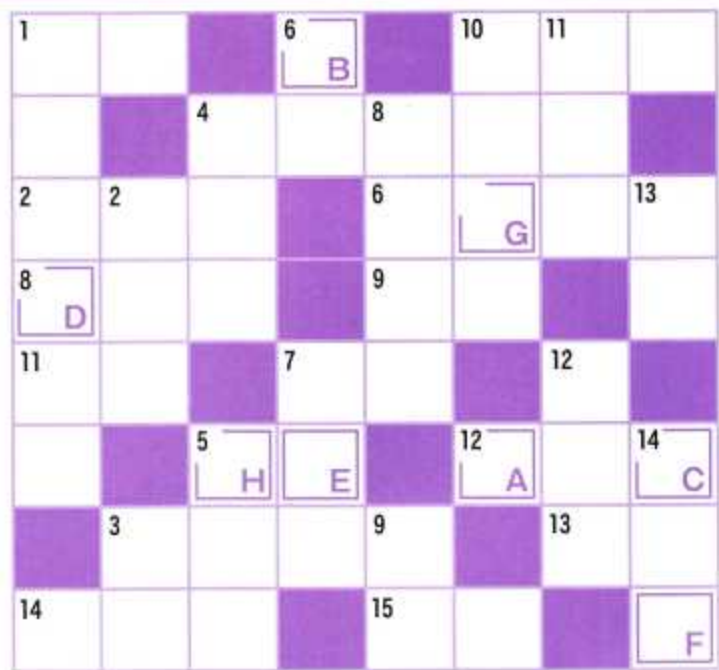
【タテのカギ】

- ①高山市の表玄関です
- ②山手の斜面に広がっています
- ③物を隔てたり、また装飾にもちいます
- ④鉄以外の金属、～金属
- ⑤眠気がきて、つい～ウツラ
- ⑥旧国道41号の別称、～小路
- ⑦追い払うこと
- ⑧南小学校で大事にされています
- ⑨絵に描かれる裸の女性
- ⑩日の出の後、日の入りの後
- ⑪北大西洋条約機構の英語名
- ⑫アユを獲るための仕掛けが設けられた場所
- ⑬竹で編まれています
- ⑭松倉城を築いた戦国大名

【ヨコのカギ】

- ①～より高い物はない
- ②一本杉白山神社にある県指定天然記念物の杉、～杉

テーマ「南地区」
 A～Hをつなげたものが答えです。



- ③南地区で一番高い山。
- ④松倉山の麓にある観光客に人気のある施設
- ⑤外の反対
- ⑥中華料理定番メニューの一つ
- ⑦毎日履いています
- ⑧暑さ真盛り
- ⑨正解のとき付ける符号
- ⑩寿司のネタの一つ、ウナギに似ています
- ⑪幹や茎から分かれています
- ⑫一本杉白山神社のある町内会、八軒町～
- ⑬悪いことをすると、これを受けます
- ⑭南小学校に歌われている花
- ⑮毎日身につけます (作/N・A)

「西町の一本松」

説明看板を設置

宮川の桁形橋より西方向を望むと、ひときわ目を引く松が見えてきます。近くまで行くと、石垣とサツキに囲まれたオアシスの中に、時を刻んだ風格のある立派な黒松があります。

かつてこの地に秋葉神社が祀られていました。戦後には、子供相撲の土俵が作られたりした場所でした。

近年、外国人観光客が写真を撮ったり黒松について聞かれる事が多くなり、松の由来を示す立て看板設置の事が町内会に寄せられたので、昨年の秋からルーツを調べ始めました。

飛騨の歴史に詳しい新谷さん、西町で幼少期を過ごされた白川造園さんなど、多くの方々にご協力を頂きました。また、英文の解説を市教育委員会や各部門の方々にお願ひしてようやく看板が七月に完成しました。コンパクトな看板で、製作費は町内の有志による寄付で賄いました。



説明看板が設置された西町の本松

一本松のオアシスは、西町良翁会の皆さんにより丹精込めて手入れをして頂いています。天気の良い日に西町のレガシーを見にきて下さい。

(西町町内会)

みなみまち協ホームページのご案内

ホームページで南地区のいろいろな情報を見ることができます。



〈ホームページアドレス〉

<http://minamachikyo.sakura.ne.jp/>

クロスワードパズルの答え

ミナミマチキョウ (みなみまち協)

南地区街角散歩(四)

文・写真 新谷信之

町の中を流れる五ヶ村用水

高山の町の側溝には、いつもさらさらと水が流れている。この水はどこから流れてくるのであろうか。

高山盆地の地形は南高北低で、盆地南端の石浦町と北端の下切町とでは、八十mほどの高低差がある。この地形を利用して、宮川・江名子川・苔川など市内を流れる川に堰を設け、水を引き込む。これが高山の町の中を流れる水となる。

南地区(校区)の市街部へは、宮川の昭和橋上流の堰で取水された水が流れてくる。この用水は、千島町を流れ下り、元飛騨産業の所で二手に分かれて、一つは旧国道(名田小路)以东へ、一つは同以西へと、そ



町の中を流れる五ヶ村用水
— 天満町三丁目 —

の先枝分かれして流れてゆく。この用水を五ヶ村用水といい、古く江戸時代に開かれたもので、もとは千島・花里・西之一色・上岡本・下岡本の五ヶ村の田畑を潤す灌漑用水であった。のち地域が市街化してゆくと、水は道路に沿った側溝に引き込まれ生活用水となり、防火用水となった。水は美しく、水量もあり、戦後しばらくまでは、たとえば駅前辺りの流れても、バイクが水中に揺らぎ、種々の川魚も泳いでいた。そのさらさらとした流れは、人々の暮らしの中の潤いでもあった。しかし今は、側溝の多くはコンクリート蓋やグレーティング等で覆われて水が見えなくなってしまう。車社会となり、側溝を覆うことで道路を少しでも広げて身を守り、転落防止のために必要な措置なのであろうけれど……。

写真は天満町三丁目に見る今は残り少なくなった水の見える側溝である。澄んだ水が流れ、溝縁に生えた草もアクセサリーである。以前、高山へ遊びにきた友人が、「高山の町はどこへ行っても美しい水が家の前を流れている」と感心して語ったことを思い出す。

文芸南

みなみ

俳句

陣屋句会

生涯を飛騨より知らず煮煮る

小鳥輝枝

刈り残す一株のあり草いさ

森本喜恵

釜鳴りやゆるやかな影秋の夕

池村とみ子

山河枯れ橋をまぶしむ渡り初め

中家富枝

しあはせは新米炊く香家に満つ

中島文子

山畑の夕日の端に野紺菊

高木みつ江

葉月会

白川郷嬢の座炉縁疵あまた

安藤 桂

金風や紅白幕の新店舗

上田真穂子

十月の青空市に古着買ふ

栗田美由紀

上を見て歩けば高き天のあり

小林高子

荘川の滋味存分に蕎麦の花

紺谷健次郎

板塀の角を曲がれば秋の風

下屋孝雄

坂の上の寺に木漏れ日秋初め

瀬川章子

蟬時雨崩れしままの登窯

玉田信哉

ジャムを煮る甘き香りや今朝の秋

保木信子

葉月なる満月を身にまとひけり

益田美貴子

萩の花駅舎に古き大時計

松井嶋子

蓮に月の明りの廻り

米沢智子

編集後記

九月、「敬老会」、十月、「ふれあい文化祭」と大きな行事が続きました。写真撮影等、取材に追われましたが、その特集を二ページ、三ページに組んでみました。

今回、新しい試みとして、南地区をテーマとしたクロスワードパズルの作成に挑戦、掲載してみました。南地区に思いを馳せながら読み解いてみてください。

本紙は年三回の発行です。次号(第八号)は、明年三月の発行となります。

(新谷)